

# 施策の評価シート(令和6年度分)

1 計画における位置付け						
政策体系	総画合計	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり		
		基本政策	15	地域に根付く商工業の振興	管理コード	061544
		施策	44	商業の振興	本冊ページ	98
	関連個別計画					
担当部局		商工観光部				
施策の内容(番号)		135		~	137	

2 「施策の内容」の総合評価と今後の方向性				
番号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価		担当課
		選択区分	今後の方向性 選択区分	
135	名物・物産品等の認知度向上に向け、積極的な情報発信に努めるとともに、魅力ある商品の開発や地域ブランド創出のための取組を支援します。	A	①	商業振興党政課
136	商店街の後継者や新たに起業しようとする人材を育成・発掘し、個店の魅力アップや起業意欲の向上を促進するとともに、商店街等における空き店舗の解消を支援します。	A	①	商業振興党政課
137	中心市街地等の活性化に向け、商店街組織と連携した集客イベントなどを通じた賑わいの創出に取り組みながら、魅力ある店舗の情報発信などにより地元での消費行動を促進し、まちの活気の創出につながる取組を支援します。	A	①	商業振興党政課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満  
 ※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3 「施策」の総合評価			
「施策の内容」の総合評価を根拠とした「施策」の総合評価	区分	選択区分	総評(施策の進捗状況や効果等を端的に記載)
		A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	C	E	C	A	A			

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

# 施策の内容評価シート(令和6年度分)

## 1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり		管理コード	061544135
		基本政策	15	地域に根付く商工業の振興		本冊ページ	98
		施策	44	商業の振興			
		関連個別計画					
担当部局		商工観光部					
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		135	名物・物産等の認知度向上に向け、積極的な情報発信に努めるとともに、魅力ある商品の開発や地域ブランド創出のための取組を支援します。				

## 2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	◎ 実施評価	
	担当課		何		◇ 事業評価の主な視点	◎ 事業評価	
					決算額 (千円)	今後の方向性	
135-1	地場産業振興事業	市物産振興会が行う物産振興イベントをはじめとする各種物産振興活動等に対する補助	効	津市物産の振興を図る	◆ 津市物産振興会への補助(予算の範囲内)	◎	津市物産振興会の食品・お菓子・農林水産物の販売や展示を行った結果、約1万8千人が来場し、津市物産の振興を図ることができた。また、物産振興会会員による市内外のイベント参加により販路の拡張を図ることができた。今後も継続して津市物産の振興を図っていききたい。
	誰		本市物産に係る事業者	◇ 津市物産まつり来場者数目標人数約15,000人	◎		
	何		本市物産の認知拡大、販売促進に資する	1,865 (千円)	現状維持		
135-2	スイーツフェスタ事業	スイーツに特化した味覚の掘り起こしと情報発信等による商業及び地域活性化を目的としたスイーツフェスタ事業に対する補助	効	スイーツに特化した津市物産の振興を図る	◆ 津市物産振興会への補助(予算の範囲内)	◎	スイーツフェスタの開催を支援した結果、2日間で約1万7千人が来場し、スイーツに特化した津市物産の販路の拡張と振興を図ることができた。今後も継続して津市物産(スイーツ)の振興を図っていききたい。
	誰		市内物産(スイーツ)に係る事業者	◇ スイーツフェスタ来場者数 目標人数約15,000人(2日間)	◎		
	何		本市のスイーツに係る認知拡大、販売促進に資する	1,200 (千円)	現状維持		
135-3			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		
135-4			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

# 施策の内容評価シート(令和6年度分)

135-5			効	◆		
			誰	◇		
			何	(千円)		
135-6			効	◆		
			誰	◇		
			何	(千円)		
135-7			効	◆		
			誰	◇		
			何	(千円)		
135-8			効	◆		
			誰	◇		
			何	(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	A
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	C	A	A	A			
今後の方向性	①	①	①	①	①	①	①			

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

# 施策の内容評価シート(令和6年度分)

1 計画における位置付け					
政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり	
		基本政策	15	地域に根付く商工業の振興	
		施策	44	商業の振興	
	管理コード	061544136		本冊ページ	98
関連個別計画					
担当部局		商工観光部			
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		136	商店街の後継者や新たに起業しようとする人材を育成・発掘し、個店の魅力アップや起業意欲の向上を促進するとともに、商店街等における空き店舗の解消を支援します。		

## 2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)	
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	◎ 実施評価		
担当課			何	誰	◇ 事業評価の主な視点	◎ 事業評価		
					決算額 (千円)	今後の方向性		
136-1	商店街魅力発信事業	様々な手法を用いて商店街へ誘客を図る取組、若者が商店街と連携しながら活動することで中心市街地の賑わい創出に繋げる取組及び若者目線での中心市街地の情報発信	効	中心市街地の賑わい創出を図る	◆	TMOへの委託事業により、若者との連携の手法による、中心市街地の賑わい創出を図る	◎	中心市街地等への新たな集客のため、若者の視点で中心市街地等の魅力を掘り起こし、幅広い世代の方々に中心市街地等へ来街するきっかけを提供し、にぎわいを創出することを目的としてサイクリングマップを3,000部制作。マップは、津市観光協会やJR津駅等の主要駅等に設置した。今後も、様々な手法を用いて中心市街地等へ誘客を図っていききたい。
	商業振興労政課		誰	商店街振興組合等の事業者	◇	作成したサイクリングマップの設置率100%	◎	
			何	TMOや若者との連携により中心市街地の賑わいづくりによる商業活性化に資する	1,293 (千円)	現状維持		
136-2	高虎楽座事業	藤堂高虎公の名を冠した中心市街地におけるステージイベントやフリーマーケットの開催に対する補助	効	藤堂高虎公の功績を再認識し、津市の伝統文化の継承及び商業振興や中心市街地の活性化を図る	◆	年2回(4月、11月)高虎楽座を開催	◎	子ども唐人踊りなどのステージイベントや一志・美杉・白山地域の物産品の販売などを実施した結果、4月に実施した第59回高虎楽座には約40,000人が来場し、中心市街地や商店街の活性化及び津市物産の振興を図ることができたが、11月に実施した第60回高虎楽座は、荒天のため14時に終了した結果、約4,000人の来場者に留まった。今後も、様々な手法を用いて中心市街地等の活性化を図っていききたい。
	商業振興労政課		誰	商店街振興組合等の事業者	◇	高虎楽座来場者数目標人数約40,000人	○	
			何	中心市街地の賑わいづくりによる商業活性化に資する	2,500 (千円)	現状維持		
136-3	商業振興事業	商店街等が行う集客イベントなど商業活性化事業に対する補助	効	商店街の活性化を促進する	◆	商店街等が行う活動やイベントへの補助	◎	各商店街や商工会等(9団体、20事業)が実施する集客イベントや商店街活性化イベントに対し、補助金を交付し、商店街の魅力発信や商業の振興を図ることができた。今後も継続して商店街等が実施するイベントの支援を行い、商店街等の活性化を図っていききたい。
	商業振興労政課		誰	商店街振興組合等の事業者	◇	補助金交付件数年間15件以上	◎	
			何	誘客拡大や賑わい創出に向け行う事業に支援することで、中心市街地と商業活性化に資する	5,789 (千円)	現状維持		

# 施策の内容評価シート(令和6年度分)

136-4	商店街新店舗誘致事業	商店街振興団体の新店舗誘致活動を促進するため、同団体に加入する事業者が商店街の空き家・空き店舗等を新たな店舗として活用する場合、同団体に対し奨励金を交付	効	商店街振興団体にある空き家・空き店舗等を新たな店舗として活用し、新店舗の誘致活動及び商店街の活性化を促進する	◆	商店街等の空き店舗への新規出店に係る支援	◎	当該奨励金の交付により、商店街の空き店舗の解消を図り、商店街の活性化及び商環境の向上を図ることができた。また、商店街振興団体の新規会員獲得につなげることができた。今後も継続して新店舗誘致に対して支援を行い、商店街の活性化につなげていきたい。新規店舗1件
	商業振興労政課		誰	商店街振興団体及び商店街等の振興を目的とする任意団体	◇	奨励金を活用した新規店舗数 年間1件以上	◎	
			何	商店街等の空き家・空き店舗の利活用を促進し、商店街の活性化に資する	200 (千円)	現状維持		
136-5			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
136-6			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
136-7			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	A
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	C	E	D	B	A			
今後の方向性	①	①	②	②	①	①	①			

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

# 施策の内容評価シート(令和6年度分)

1 計画における位置付け					
政策体系	総合計画	目標	06	魅力と活力を生み出すまちづくり	
		基本政策	15	地域に根付く商工業の振興	管理コード 061544137
		施策	44	商業の振興	本冊ページ 98
	関連個別計画				
担当部局		商工観光部			
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		137	中心市街地等の活性化に向け、商店街組織と連携した集客イベントなどを通じた賑わいの創出に取り組みながら、魅力ある店舗の情報発信などにより地元での消費行動を促進し、まちの活気の創出につながる取組を支援します。		

## 2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	実施評価 事業評価	
	担当課		何		決算額 (千円)	今後の方向性	
137-1	商店街魅力発信事業	様々な手法を用いて商店街へ誘客を図る取組、学生が商店街と連携しながら活動することで中心市街地の賑わい創出に繋げる取組及び学生目線での中心市街地の情報発信	効	中心市街地の賑わい創出を図る	◆ TMOへの委託事業により、若者との連携の手法による、中心市街地の賑わい創出を図る	◎	中心市街地等への新たな集客のため、若者の視点で中心市街地等の魅力を掘り起こし、幅広い世代の方々に中心市街地等へ来街するきっかけを提供し、にぎわいを創出することを目的としてサイクリングマップを3,000部制作。マップは、津市観光協会やJR津駅等の主要駅等に設置した。今後も、様々な手法を用いて中心市街地等へ誘客を図っていききたい。
	商業振興労政課		誰	商店街振興組合等の事業者	◇ 作成したサイクリングマップの設置率100%	◎	
			何	TMOや若者との連携により中心市街地の賑わいづくりによる商業活性化に資する	1,293 (千円)	現状維持	
137-2	高虎楽座事業	藤堂高虎公の名を冠した中心市街地におけるステージイベントやフリーマーケットの開催に対する補助	効	藤堂高虎公の功績を再認識し、津市の伝統文化の継承及び商業振興や中心市街地の活性化を図る	◆ 年2回(4月、11月)高虎楽座を開催	◎	子ども唐人踊りなどのステージイベントや一志・美杉・白山地域の物産品の販売などを実施した結果、4月に実施した第59回高虎楽座には約40,000人が来場し、中心市街地や商店街の活性化及び津市物産の振興を図ることができたが、11月に実施した第60回高虎楽座は、荒天のため14時に終了した結果、約4,000人の来場者に留まった。今後も、様々な手法を用いて中心市街地等の活性化を図っていききたい。
	商業振興労政課		誰	商店街振興組合等の事業者	◇ 高虎楽座来場者数目標人数約40,000人	○	
			何	中心市街地の賑わいづくりによる商業活性化に資する	2,500 (千円)	現状維持	
137-3	商業振興事業	商店街等が行う集客イベントなど商業活性化事業に対する補助	効	商店街の活性化を促進する	◆ 商店街等が行う活動やイベントへの補助	◎	各商店街や商工会等(9団体、20事業)が実施する集客イベントや商店街活性化イベントに対し、補助金を交付し、商店街の魅力発信や商業の振興を図ることができた。今後も継続して商店街等が実施するイベントの支援を行い、商店街等の活性化を図っていききたい。
	商業振興労政課		誰	商店街振興組合等の事業者	◇ 補助金交付件数年間15件以上	◎	
			何	誘客拡大や賑わい創出に向け行う事業に支援することで、中心市街地と商業活性化に資する	5,789 (千円)	現状維持	

# 施策の内容評価シート(令和6年度分)

137-4	商店街新店舗誘致事業	商店街振興団体の新店舗誘致活動を促進するため、同団体に加入する事業者が商店街の空き家・空き店舗等を新たな店舗として活用する場合、同団体に対し奨励金を交付	効	商店街振興団体にある空き家・空き店舗等を新たな店舗として活用し、新店舗の誘致活動及び商店街の活性化を促進する	◆	商店街等の空き店舗への新規出店に係る支援	◎	当該奨励金の交付により、商店街の空き店舗の解消を図り、商店街の活性化及び商環境の向上を図ることができた。また、商店街振興団体の新規会員獲得につなげることができた。今後も継続して新店舗誘致に対して支援を行い、商店街の活性化につなげていきたい。新規店舗1件
	商業振興労政課		誰	商店街振興団体及び商店街等の振興を目的とする任意団体	◇	奨励金を活用した新規店舗数 年間1件以上	◎	
			何	商店街等の空き家・空き店舗の利活用を促進し、商店街の活性化に資する	200 (千円)	現状維持		
137-5			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
137-6			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
137-7			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)  
 ※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない  
 ※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	A
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。  
 ※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	C	E	D	B	A			
今後の方向性	①	①	②	②	①	①	①			

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

